

## I

## ■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。二者のやりとりの流れを的確にとらえましょう。話題は「結婚披露宴の余興」です。誰が誰に何を依頼しているのか、また、依頼された人はどのように返答しているのかを、正確に把握しましょう。

## ■採点講評

どの問題も正答率は比較的高く、5を除いて50%を超えていました。ただし、満点の人は約15%でした。比較的誤答が多かった5は、RieがNateのどんな依頼に同意したかを選ぶ問題でした。会話の終盤の内容に意識を払ってしまったせいで、最も重要な同意内容を誤解し、選択肢②を選んだ人が多かったです。

## II

## ■出題のねらい

ドキュメンタリー番組用の水中撮影に関するEメールを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。撮影する側の仕事内容がどのようなものを想像できれば、細部までイメージを膨らませながら正確に読み取ることが可能でした。また、情報の多さに惑わされず、必要な部分を素早く見つける能力が必要になります。

## ■採点講評

この問題も正答率は比較的高く、全て50%以上でした。特に、比較的区別が難しいと思われる7の正答率が最も高く、約70%でした。あまり馴染みのない語彙があったとしても、基本的な語彙力・文法力に基づいて類推することで、全般的な内容を正確に把握できる問題でした。

### III

#### ■出題のねらい

日本の火山における警戒システムに関する英文です。英文から火山の数や警戒レベルの変化、年度などの数字を正確に読み取り、各組織がどのような仕事を分担しているのかを理解する必要があります。図の問題では、選択肢に用いられている比較級を読み解くことがポイントです。

#### ■採点講評

最近、日本で火山活動に関するニュースが頻繁に流れているからか、かなりレベルの高い語彙が含まれているにもかかわらず、正答率が高かったです。日頃から、社会的なニュースに注目しておきましょう。11のみ正答率が50%以下でした。“under + 名詞”には、頻度の高い組み合わせがいくつか存在します。“watch”もその一つです。

### IV

#### ■出題のねらい

救命救急医療の現場で、医師と看護師を乗せて緊急に手当てが必要な患者のもとに向かうドクターヘリの英文です。調査によると、日本全国のドクターヘリ出動回数は2002年と比べて2013年は9倍近くになっています。ドクターヘリの導入が患者の生存率を高めることから、その導入要請は増えています。これらの事情と、これに伴って生じる問題点を丁寧に読みましょう。関係詞節を伴った複雑な文章構造も多用されていますので、先行詞は何になるのか（何を説明しているのか）を常に念頭に置いて読みましょう。

#### ■採点講評

英文の内容を理解できている人が多かったようです。半数以上の受験者が50%以上の正答率でした。ただし、語彙力・文法力の差が明確に表れる問題もありました。例えば16で、動詞“use”と“utilize”が入れ替え可能であることを理解できた人は30%しかいませんでした。また、23では、“a number of”と“the number of”の意味の違いを十分に理解できていない人が多いようでした。内容の理解に基づく問題で、選択肢が英語の場合、多少正答率が下がるようです。選択肢一つ一つを正確に理解するよう努めましょう。なお、この長文の英文には数字や倍数・割合に関わる表現が数多く利用されています。理工系分野に進学する人にとってはとても基本的な表現です。しっかり学習しておきましょう。

# V

## ■出題のねらい

日本古来の行事である七夕について述べた文章です。(1)の並べかえ問題では、1)主語と動詞の呼応、2)「be said to+動詞原形」の構文、3)受動態の現在完了形の構文など、基本的な文法事項を取り上げました。(2)は、英文全体の内容が把握できているかどうかを問いました。

## ■採点講評

多くの人が、英作文の解答にはやや苦勞したようです。正答率は全て約50%でした。一方、30の正答率は、50%以上でした。選択肢④を選んだ人が多かったです。“other than”や“no longer”など、イディオム的な語句の意味や利用法も、正確に把握しておきましょう。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ③write ⑤their ④wishes ②on
- 2) ⑤are ②said ①to be ④mixtures
- 3) ③they ①have ⑤been ②allowed